

日本付近の台風

日本付近の台風の強度は強まり、日本の南海上で猛烈な台風の存在頻度が増加すると予測されます※1

(『日本の気候変動2020』本編第9章より)

猛烈な台風※2に着目すると、日本の南海上で存在頻度(一定期間当たりに、その場所に存在する個数)が増加すると予測されます。

※1: 確信度は中程度(詳細は『日本の気候変動2020』本編第9章参照)

※2: 気象庁では最大風速54m/s以上の熱帯低気圧を指します。ただしこの研究では最大風速59m/s以上とされています。

猛烈な台風が 存在する頻度の変化

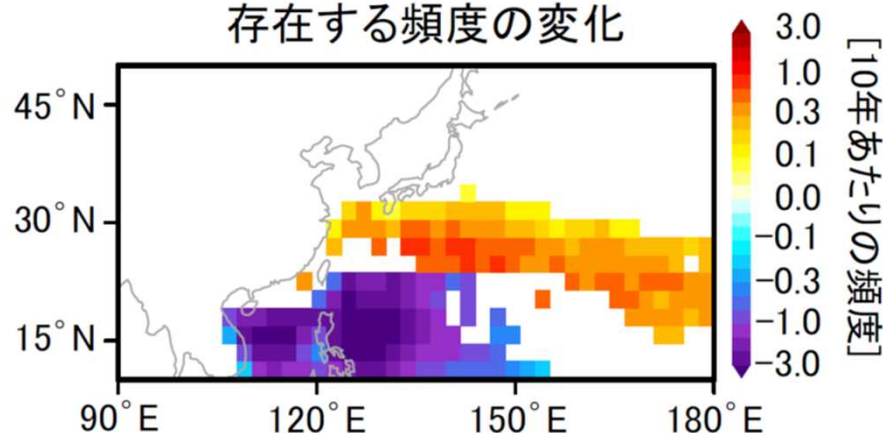


図. 猛烈な熱帯低気圧(台風)が存在する頻度の将来変化
世界平均気温が4℃上昇した状態において、猛烈な台風の存在頻度が、暖色の領域では現在(1979~2010年)よりも増し、寒色の領域では減ることを示している。

(平成29年10月26日気象研究所・気象業務支援センター報道発表資料より)

全国の情報はこちら

「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁、令和2年12月公表)



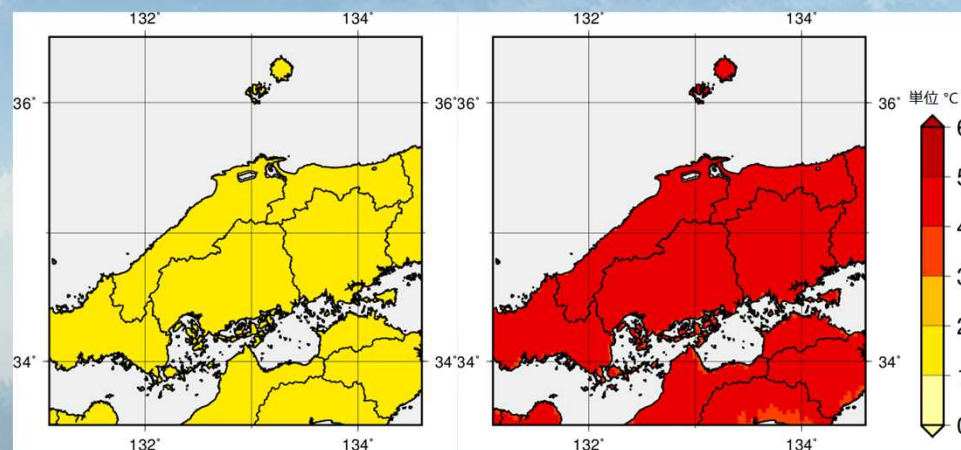
お問合せはこちら

鳥取地方気象台
〒680-0842
鳥取県鳥取市吉方109
鳥取第3地方合同庁舎3階
担当: 防災管理官室
電話: 0857-29-1313

鳥取県の気候変動

「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁)
に基づく地域の観測・予測情報リーフレット

鳥取県の年平均気温の将来予測(21世紀末)



2℃上昇シナリオでは
鳥取県の気温上昇は
約1.4℃に!



4℃上昇シナリオでは
鳥取県の気温上昇は
約4.3℃に!

このリーフレットでは、20世紀末※と比較した21世紀末※の将来予測を、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書(AR5)で用いられた以下2つの代表的濃度経路(RCP)シナリオについて示しています。

※ 20世紀末: 1980~1999年の平均、21世紀末: 2076~2095年の平均

2℃上昇シナリオ(RCP2.6)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2℃上昇。
パリ協定の2℃目標が達成された世界。

4℃上昇シナリオ(RCP8.5)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4℃上昇。
追加的な緩和策を取らなかった世界。

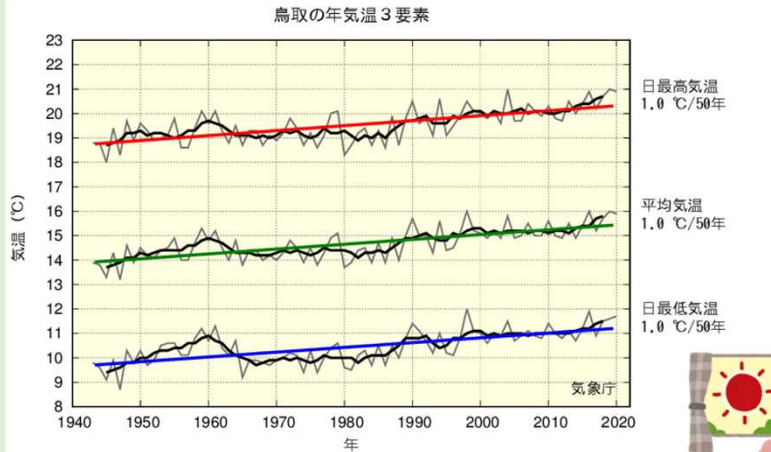
令和4年3月
鳥取地方気象台

これまでの変化

気温の変化

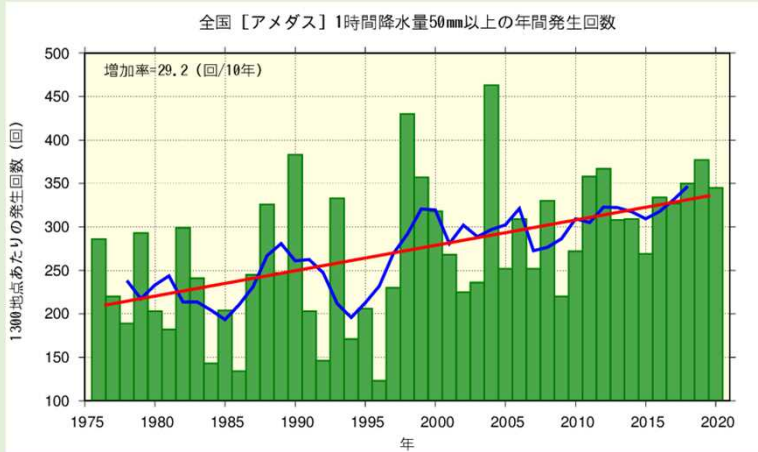
鳥取では年平均気温が50年あたり約**1.0℃**上昇しています。猛暑日や熱帯夜※の日数については、1990年代以降の発生数は特に多くなっています。

※猛暑日：日最高気温35℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上



雨の変化

全国では、短時間に降る非常に激しい雨（1時間降水量50mm以上）の回数は増加しています。なお、中国地方においてはまれな現象なので、統計的に有意な変化傾向は確認できません。



追加的な緩和策なし

4℃上昇シナリオ

将来は
どうなる
のかな？



2℃上昇シナリオ

パリ協定の2℃目標達成



これからの変化

気温の変化

鳥取県の年平均気温は約**4.3℃**上昇します

猛暑日日数	約24日増加 ↑
真夏日日数	約55日増加 ↑
熱帯夜日数	約53日増加 ↑
冬日日数	約38日減少 ↓

猛暑日：日最高気温35℃以上
真夏日：日最高気温30℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上
冬日：日最低気温0℃未満

雨の変化

中国地方に降る非常に激しい雨※¹の回数は、約**3.4倍**に増加します

※¹：1時間降水量50mm以上

日降水量200mm以上の回数	約3.2倍に増加 ↑
年最大日降水量※ ²	約1.3倍に増加 ↑
無降水日日数	約12日増加 ↑

※²：1年で最も多くの雨が降った日の降水量

大雨や短時間強雨は発生数が少ないため、地域単位での予測は不確実性が大きいことに注意が必要です。

「これからの変化」とは、21世紀末（2076～2095年の平均）の予測を20世紀末（1980～1999年の平均）と比較したものです。

気温の変化

鳥取県の年平均気温は約**1.4℃**上昇します

猛暑日日数	約4日増加 ↑
真夏日日数	約16日増加 ↑
熱帯夜日数	約13日増加 ↑
冬日日数	約18日減少 ↓

猛暑日：日最高気温35℃以上
真夏日：日最高気温30℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上
冬日：日最低気温0℃未満

雨の変化

中国地方に降る非常に激しい雨※¹の回数は、約**2.4倍**に増加します

※¹：1時間降水量50mm以上

日降水量200mm以上の回数	約2.3倍に増加 ↑
年最大日降水量※ ²	約1.2倍に増加 ↑
無降水日日数	有意な変化なし

※²：1年で最も多くの雨が降った日の降水量

大雨や短時間強雨は発生数が少ないため、地域単位での予測は不確実性が大きいことに注意が必要です。